

勝つための
国際交渉術教えます！

内海 善雄 著

日刊工業新聞社
1470円

米国発のクレジット

・パニックが世界中を一瞬の内に駆け巡り、日本人の生活を直撃している。資源の無い日本は、益々知力を磨いて技術を高め国際社会に挑戦していくしかない。だが国連でもタポス会議でも、未だに日本人は無口で慎重、しかも仲間で群れる習性から抜け出せない。

これではいくら知力を蓄えても国際社会では勝てないし、どうしても国際人に成り切れないとみんなが嘆く。判っているのにどうしてそれを治せないのか。

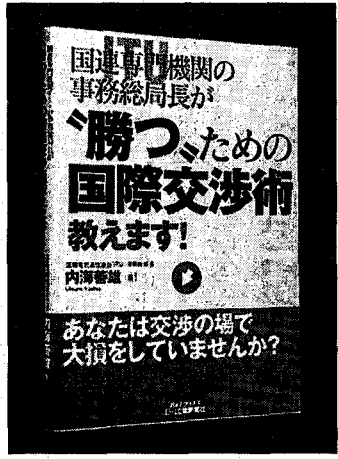
この本は、中学高校生にも読めるような大麥判り易い言葉で明確にその原因を示し、しかも経営者が即実践出

本棚から一冊



評者 福岡大学 経済学部客員教授

永野 芳宣



手に打ち勝つグローバルマナーを発揮すると言う訓練が出来ていないためだと指摘する。筆者は、国連の国際電気通信連合(ITU)事務総局長を長年勤め、2万人以上の国際人に会って来た経験を豊富に活用して、国際社会とは正に騎馬民族型の相手に勝たねば意味の無い闘争の場との認識を強調している。

来る鍵を与えてくれる名著である。ズバリ筆者は、治せない原因は農耕民族・組織のマナーを重視する真面目な日本人が、この内向け行儀をそのまま国際社会に持ち込むから失敗すると言う。日本人は、国際社会では即座にマインドのギアを切り替え、相手が陥りやすい初歩的

グローバルマナー習得への入門書

間違いない「国際会議のマナー」など、実務にそのまま使える具体的な事例が、随所に紹介されている。特にアメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、スペイン、イタリア、ロシア、アラブ、中国、インド、アフリカ、韓国等々各国別対処法は圧巻。

また国際社会で各国の国民性がどう見られているか。幅広い意識調査による、「ドイツ人は綿密な構造計算から始める」「フランス人はデザインから始める」「アメリカ人はマニュアルから作る」「日本人は各国の良い所だけ取って作る」と言う紹介等も成る程と思う。

本書は新入社員研修にも大いに使える。英語が小学校の必須になる時代。これから全て日本人が国際人に成り国際社会に本格参入するマナーの入門書として活用してはどうか。